# 理学療法学科 夜間部

# シ ラ バ ス

## 実務経験のある教員等による授業科目一覧（理学療法学科　夜間部）

| NO | 科目名 | 単位時間 | 実務経験内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 機能解剖学 | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 2 | 運動学Ⅰ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 3 | 運動学Ⅱ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 4 | 運動学Ⅲ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 5 | 臨床運動学 | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 6 | 人間発達学 | 30 | 本科目は，臨床心理士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 7 | 病理学概論 | 15 | 本科目は，医師として実務経験のある教員による授業である。 |
| 8 | 一般臨床医学 | 15 | 本科目は，医師として実務経験のある教員による授業である。 |
| 9 | 臨床心理学 | 30 | 本科目は，臨床心理士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 10 | 内科学Ⅰ | 30 | 本科目は，医師として実務経験のある教員による授業である。 |
| 11 | 内科学Ⅱ | 30 | 本科目は，医師として実務経験のある教員による授業である。 |
| 12 | 整形外科学Ⅰ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 13 | 整形外科学Ⅱ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 14 | 神経内科学Ⅰ | 30 | 本科目は，医師として実務経験のある教員による授業である。 |
| 15 | 神経内科学Ⅱ | 30 | 本科目は，医師として実務経験のある教員による授業である。 |
| 16 | 小児科学 | 30 | 本科目は，医師として実務経験のある教員による授業である。 |
| 17 | 画像診断 | 30 | 本科目は，診療放射線技師として実務経験のある教員による授業である。 |
| 18 | ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学 | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 19 | 理学療法概論 | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 20 | 理学療法技術論Ⅰ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 21 | 理学療法技術論Ⅱ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 22 | 理学療法学総論Ⅰ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 23 | 理学療法学総論Ⅱ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 24 | 理学療法評価学Ⅰ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 25 | 理学療法評価学Ⅱ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 26 | 理学療法評価学Ⅲ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 27 | 理学療法評価学Ⅳ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 28 | 理学療法評価学Ⅴ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 29 | 理学療法治療学Ⅰ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 30 | 理学療法治療学Ⅱ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 31 | 理学療法治療学Ⅲ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 32 | 理学療法治療学Ⅳ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 33 | 理学療法治療学Ⅴ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 34 | 理学療法治療学Ⅵ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 35 | 理学療法治療学Ⅶ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 36 | 理学療法治療学Ⅷ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 37 | 理学療法治療学Ⅸ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 38 | 物理療法学 | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 39 | 日常生活活動 | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |

| NO | 科目名 | 単位時間 | 実務経験内容 |
|---|---|---|---|
| 40 | 義肢装具学Ⅰ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 41 | 義肢装具学Ⅱ | 30 | 本科目は，理学療法士・義肢装具士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 42 | 運動器学Ⅰ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 43 | 運動器学Ⅱ | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 44 | スポーツ理学療法 | 15 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 45 | 生活環境論 | 15 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 46 | 福祉環境論 | 15 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 47 | 地域リハビリテーション論 | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 48 | 臨床実習Ⅰ | 45 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 49 | 臨床実習Ⅱ | 90 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 50 | 臨床実習Ⅲ | 180 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 51 | 臨床実習Ⅳ | 720 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
| 52 | 研究法 | 30 | 本科目は，理学療法士として実務経験のある教員による授業である。 |
|  | 合　計 | 2400 |  |

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 臨床運動学 | **担当講師** | 横山　尚宏 | | |
| **科 目 区 分:** | 専門 | **授 業 学 年:** | 3年 | **単 位 数 :** | 1 |
| **選 択 必 修:** | 必修 | **授 業 方 法:** | **講義** | **単 位 時 間 :** | 30 |

## ○ *教育目標*

運動学Ⅰ、Ⅱ、運動学Ⅲで正常運動、動作を学び、臨床運動学において正常からの逸脱、疾患の特異性などを明らかにすることが目的である。
運動異常、運動障害をどのように捉えていくかを理論と実技の両方から学ぶ。

## ○ *授業内容*

1. 2.　骨・関節の異常と運動
　　ROM障害が起こるとどのような動きが診られるかを学習する
3. 4.　筋の障害と運動
　　筋が障害されるとどのような動作がみられるか
　　MMTとそれぞれのレベルの動き
5.　代償運動
6. 7. 8. 異常動作と起居動作
　　筋力低下が原因で診られる起居動作
　　随意運動障害が原因で診られる起居動作
　　協調性障害が原因で診られる起居動作
　　運動器障害が原因で診られる起居動作
9. 10.　運動障害と異常歩行
　　筋力低下が原因で診られる歩行
　　随意運動障害が原因で診られる歩行
11. 12. 協調性障害が原因で診られる歩行
　　運動器障害で診られる歩行
13. 14. 正常歩行と歩行分析
15.　筆記試験

## ○ *教科書及び参考書*

『基礎運動学』　医歯薬出版　その他、配布資料等

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

筆記試験を実施し、６０点以上を合格、未満を不合格とする。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 画像診断 | **担当講師** | 浅井 愛邦、松下 啓 | | |
| **科目区分:** | 専門基礎 | **授業学年:** | 3年 | **単位数:** | 1 |
| **選択必修:** | 必修 | **授業方法:** | 講義 | **単位時間:** | 15 |

## ○ *教育目標*

疾患診断に必要な医用画像について、各種診断機器による画像の成り立ちを理解したうえで、今までに得た解剖学、生理学や病態学の知識に基づき、画像解剖学的事項、画像検査法の選択、臓器ごと、疾患ごとの医用画像の臨床的評価、代表的な疾患の画像所見について学習する。

## ○ *授業内容*

1　各種の画像検査法および画像の成り立ちについてその特性を説明する。
2　画像検査を必要とする目的およびその臨床的意義について理解する。
3　それぞれの臓器の解剖学的知識を整理し、画像と対比して関連を説明する。
4　それぞれの画像検査においてその所見から代表的疾患の病態について論述する。

授業の計画
（1）放射線診断学　総論
（2）骨格系（頭蓋骨、縫合、副鼻腔、脳頭蓋、顔面頭蓋、副鼻腔腫瘍、骨軟部組織）
（3）骨格系（脊柱、椎孔、椎間孔、椎間板、骨粗鬆症、骨腫瘍、椎間板ヘルニア、骨転移）
（4）脳神経画像診断総論（CT・MRIの応用）
（5）脳血管性病変（大脳、小脳、中脳、脳梗塞、くも膜下出血、脳出血、ラクナ梗塞）
（6）脳腫瘍性病変（脳腫瘍）
（7）循環器・血管・リンパ系
（8）試験

## ○ *教科書及び参考書*

プリント資料を配布する

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

筆記試験を実施し、６０点以上を合格、未満を不合格とする。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 理学療法学総論Ⅰ | **担当講師** | 野方 敏行(全教員) | | |
| **科目区分:** | 専門 | **授業学年:** | 4年 | **単位数:** | 2 |
| **選択必修:** | 必修 | **授業方法:** | **講義** | **単位時間:** | 30 |

## ○ *教育目標*

解剖学、生理学、運動学など基礎分野から見直し、理学療法の対象となる疾患への評価や治療法を総合的に学習し、根拠をもった臨床能力を修得する。

## ○ *授業内容*

・解剖、生理、運動学、病理学、内科学、整形外科学、小児科学、臨床心理、精神医学

1：中枢神経系 、呼吸循環器系
2：内蔵諸器官系、骨関節筋系
3：内分泌・代謝系、病理
4：人間発達・小児科学領域
5：臨床心理・精神医学領域

・中枢神経系、運動器系、内部障害系、小児系の代表的疾患の病態生理

6：脳血管障害、神経、筋障害、脊髄損傷など
7：変形性関節症、骨折、関節リウマチ、熱傷、外傷など
8：呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患など
9：脳性麻痺、先天性疾患など

・脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法評価

10：MMT、ROM
11：ブルーンストローム法など中枢神経系評価
12：整形外科的検査など
13：バイタル、呼吸機能検査など
14：運動発達、反射・反応系検査など

・まとめ
15：筆記試験

## ○ *教科書及び参考書*

特に定まったものはない.　それぞれの臨床実習で必要な参考書などを学生各個人で収集する. もしくは学内において使用した教科書なども参考にする.

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

筆記試験を実施し、６０点以上を合格、未満を不合格とする。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 理学療法学総論Ⅱ | **担当講師** | 西田　徳和(全教員) | | |
| **科 目 区 分:** | 専門 | **授 業 学 年:** | 4年 | **単 位 数 :** | 2 |
| **選 択 必 修:** | 必修 | **授 業 方 法:** | **講義** | **単 位 時 間 :** | 30 |

## ○ *教育目標*

解剖学、生理学、運動学など基礎分野から見直し、理学療法の対象となる疾患への評価や治療法を総合的に学習し、根拠をもった臨床能力を修得する。

## ○ *授業内容*

脳血管障害、運動器疾患、内部障害、小児疾患の代表的疾患の理学療法アプローチ

1.2.3：運動療法など
4.5.6：物理療法など
7.8.9：装具療法など
10.11：その他

リスク管理

12：適応と禁忌など
13：感染予防、救命措置など
14：個人情報保護など情報管理

まとめ

15：筆記試験

## ○ *教科書及び参考書*

特に定まったものはない。　それぞれの臨床実習で使用した参考書などを学生各個人で収集する。もしくは学内において使用した教科書なども参考にする。

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

筆記試験を実施し、６０点以上を合格、未満を不合格とする。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 理学療法評価学Ⅳ | **担当講師** | 東條夏也・林浩之・酒匂久光 | | |
| **科 目 区 分:** | 専門 | **授 業 学 年:** | 3年 | **単 位 数 :** | 1 |
| **選 択 必 修:** | 必修 | **授 業 方 法:** | 講義・実技 | **単 位 時 間 :** | 30 |

## ○ *教育目標*

中枢神経系疾患における病態及び機能障害の理解を基礎として、各種検査法の理解および病態に合わせた評価の意義を理解する。

1） 中枢神経系疾患における検査測定法の目的・対象について説明できる。
2） 疾病に対応した検査項目を列挙し、それぞれの意義を説明することができる。
3） 各種検査測定を正確かつ迅速に実施でき、その結果を記録することができる。
4） 検査測定より得られた結果から、正常所見と異常所見の判定ができる。
5） 診断学的データと障害学的データを区別し、疾患像を把握することができる。

## ○ *授業内容*

1） 姿勢反射検査：小児の運動発達
2） 姿勢反射検査：姿勢反射概念
3） 姿勢反射検査：立ち直り反応・平衡反応・保護伸展反応
4） 姿勢反射検査：立ち直り反応・平衡反応・保護伸展反応への検査実技
5） 高次脳機能検査：定義、概要、留意点、意識障害、記憶障害、知的機能障害
6） 高次脳機能検査：半側空間無視、失認、注意障害、行動障害、Ｐｕｓｈｅｒ症候群
7） 高次脳機能検査：失語、失行、脳梁離断症状
8） 協調性検査：小脳関連解剖生理
9） 協調性検査：協調性障害(四肢協調運動障害、姿勢・平衡機能障害)
10）協調性検査：協調性検査実技
11）中枢神経疾患の評価の実際：臨床で評価を行う際に留意すべき点
12）中枢神経疾患の評価の実際：リスクや記録上で留意すべき点
13）パーキンソン病への評価
　　1・2次的機能障害の意義と方法、機能障害と能力低下の関連性
14）運動失調症への評価
　　1・2次的機能障害の意義と方法、機能障害と能力低下の関連性
15）筆記試験

## ○ *教科書及び参考書*

理学療法検査測定ガイド　　奈良勲　　文光堂

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

筆記試験で60点以上を合格、未満を不合格とする。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 理学療法治療学Ⅱ | **担当講師** | 谷口　善昭 | | |
| **科目区分:** | 専門 | **授業学年:** | 3年 | **単位数:** | 2 |
| **選択必修:** | 必修 | **授業方法:** | 講義 | **単位時間:** | 30 |

## ○ *教育目標*

・脳血管疾患でみられる障害の特性について、病態や病因を踏まえて理学療法の展開を学習する。
・神経系に起因する運動障害の原因・回復過程・予後に関する知識を基に、機能障害の回復促進・残存障害および障害の予防に対する評価・運動療法を列挙し、その目的も含め説明できるようになる。
・各種疾患ごとの徴候・障害と病態のかかわり、評価のプロセス・急性期と回復期・維持期の病態の相違、リハビリテーション上でのリスクについて理解できる。

## ○ *授業内容*

＜脳血管疾患＞

1) 脳血管障害総論：中枢神経構造、機能、栄養血管、脳損傷の定義と病態、ＮＩNDS-Ⅲ
2) 脳血管障害の機能回復と医学管理：機能回復の特徴、原因、ペナンブラ、可塑化、再組織化、予後予測、脳血管障害のリスク、再発予防、ＩＣＵ
3) 脳血管障害に対するトレーニングと治療：システム論、課題志向型アプローチ、脳卒中ガイドライン2009
4) 急性期リハビリテーション：生命維持管理、意識障害、リスク管理、廃用症候群予防、早期離床、リハ開始基準
5) 急性期リハビリテーション演習：ポジショニング、坐位耐久性基準、廃用症候群予防
6) 急性期リハビリテーション：肩手症候群と肩関節亜脱臼の病態と治療、予防、問題点抽出、ゴール設定
7) 回復期リハビリテーション：脳卒中片麻痺の回復期、回復期リハビリテーション病棟 、ＳＩＡＳ、mＲＳ、ＮＩＨＳＳ、ＪＳＳ
8) 回復期リハビリテーション：基本動作訓練、歩行訓練と装具、ＡＤＬ訓練
9) 回復期リハビリテーション演習：基本動作訓練、歩行訓練と装具、ＡＤＬ訓練
10) 回復期リハビリテーション：高次脳機能障害への対応、Ｐｕｓher症候群への対応
11) 回復期リハビリテーション演習 ：高次脳機能障害への対応、Ｐｕｓher症候群への対応
12) 回復期リハビリテーション：問題点抽出、ゴール設定、治療プログラム設定
13) 維持期リハビリテーション：脳卒中片麻痺の維持期、廃用症候群、転倒、閉じこもり症候群
14) 維持期リハビリテーション：問題点抽出、ゴール設定、治療プログラム設定
15) 筆記試験

## ○ *教科書及び参考書*

中枢神経障害理学療法学テキスト　南江堂　・　理学療法評価学　第2版　　金原出版株式会社
運動療法学　　文光堂　　・　病気がみえるvol.７脳・神経　メディックメディア

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

筆記試験により６０点以上を合格、未満を不合格とする。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 理学療法治療学Ⅲ | **担当講師** | 野方 敏行 | | |
| **科目区分:** | 専門 | **授業学年:** | 3年 | **単位数:** | 2 |
| **選択必修:** | 必修 | **授業方法:** | 講義 | **単位時間:** | 30 |

## ○ *教育目標*

慢性期の呼吸理学療法を中心に行った後、急性期の呼吸理学療法ついて講義を行う。
①慢性呼吸不全の病態を理解し、理学療法に必要な評価を行うことができる。問題点を抽出しゴールを設定し、適切な治療法を選択し実施することができる。
②人工呼吸管理中および術後の呼吸状態を理解し、理学療法に必要な評価を行うことができる。
問題点を　抽出しゴールを設定し、適切な治療法を計画することができる。

## ○ *授業内容*

第1回：慢性呼吸不全患者の臨床像を把握し、日常の問題点を述べることができる。
第2回：スパイロメーターの測定結果を解釈することができ、閉塞性・拘束性喚起障害を理解する。
　　代表的な呼吸器疾患(COPD、肺線維症）の病態を理解する。
第3回：血液ガス検査の解釈ができ、それから呼吸状態を知ることができる。
　　酸素および高炭酸ガス血漿の症状を理解し、リスク管理ができる。
第4回：慢性期呼吸理学療法の役割および目的を述べることができる。
第5回：呼吸理学療法を行う上で必要な評価項目を述べることができる。
第6回：呼吸理学療法に必要な検査問診・視診・打診・聴診・運動負荷試験（６MD）
第7回：を行うことができ、測定結果をもとに各問題点を挙げることができる。
第8回：呼吸理学療法の基本的な治療・訓練の意義を理解し、実施することができる。
第9回：呼吸理学療法の基本的な治療・訓練の意義を理解し、実施することができる。
第10回：リラクセーション・呼吸訓練・胸郭可動域訓練・排痰訓練・運動療法
第11回：リラクセーション・呼吸訓練・胸郭可動域訓練・排痰訓練・運動療法
第12回：ＩＣＵにおける運動療法実施上の要点と注意点を学び、リスク管理に配慮出来るようにする。
第13回：人工呼吸器の基本的な仕組みが分かり、人工呼吸器の目的を理解する。
　　人工呼吸管理中の患者の問題点が理解できる。
第14回：周術期における全身状態（呼吸状態・栄養状態等）を理解し、問題点を挙げることができ、
　　必要な訓練を選択することができる。
第15回：テスト

## ○ *教科書及び参考書*

教科書：理学療法テキスト 15レクチャーシリーズ　内部障害理学療法学・呼吸
参考書:呼吸リハビリテーション入門　千住秀明　神陵文庫

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

筆記試験にて60点以上を合格とし、未満を不合格とする。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 理学療法治療学Ⅳ | **担当講師** | 長津 秀文 | | |
| **科目区分:** | 専門 | **授業学年:** | 3年 | **単位数:** | 2 |
| **選択必修:** | 必修 | **授業方法:** | 講義 | **単位時間:** | 30 |

## ○ *教育目標*

理学療法を行なううえで基礎となる運動療法を各疾患ごとに整理していく。解剖・運動学について復習しながら、疾患を十分理解したうえで、それに関連する評価や理学療法について、各項目ごとに知識を深めていく。ここでは運動療法のなかでも整形疾患について学び、中でも臨床においてよく遭遇する疾患や国家試験に頻繁に出題されている疾患を中心に理解を深める。

## ○ *授業内容*

1. 骨折と脱臼：骨折と脱臼の定義と病態：変形治癒と遷延治癒について理解する。
2. 上肢・下肢の骨折と脱臼：高齢者の運動特性、発生機序、骨折の分類、上・下肢骨折の保存治療と観血治療。
3. 腰部疾患:腰痛を主症状とする疾患の総合的な評価・症状・理学療法。
4. 変形性関節症:変形性関節症の病態理学療法の治療と目的を理解する。
5. 変形性膝・股関節症:変形性膝・股関節症の病態：理学療法の保存・観血治療と目的を理解する。
6. 関節リウマチ:関節リウマチの病態・変形を理解する。リウマチの進行過程と理学療法を理解する。
7. 膝靭帯損傷:膝靭帯損傷の発生機序と病態が理解できる。
8. 半月板損傷:半月板損傷の発生機序と病態が理解できる。
9. 末梢神経損傷:末梢神経の解剖、生理について学習する。
   末梢神経損傷の受傷機転、症状、治癒過程、理学療法。
10. 末梢神経損傷:絞扼性神経障害の主たる絞扼部位、症状、評価、理学療法。
11. 末梢神経損傷:腕神経叢損傷、胸郭出口症候群の受傷機転、症状、評価、理学療法。
12. 腱損傷疾患:腱損傷の受傷機転、症状、治癒過程、評価、理学療法。
13. 肩関節疾患:肩関節疾患の受傷機転、症状、治癒過程、評価、理学療法。
14. 熱傷:熱傷の症状、治癒過程、評価、理学療法。
15. 試験　解説。

## ○ *教科書及び参考書*

参考資料：レクチャーシリーズ１５　　運動器障害理学療法学Ⅰ、医学書院　「標準整形外科学」

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

筆記試験の総合評価により６０点以上を合格、５９点以下を不合格とする。

# 授業計画書

| | | | |
|---|---|---|---|
| **科目名** | 理学療法治療学Ⅴ | **担当講師** | 東條　夏也 |
| **科目区分:** 専門 | **授業学年:** 3年 | **単位数:** | 2 |
| **選択必修:** 必修 | **授業方法:** 講義 | **単位時間:** | 30 |

## ○ *教育目標*

脳性麻痺を中心とした発達障害に対し，小児期の特徴を理解した上で，障害像を把握するための評価および治療を学ぶ.

1)脳性まひの理解
2)筋ジストロフィー症の理解
3)二分脊椎症　その他，小児疾患の理解

## ○ *授業内容*

正常発達の基礎知識を習得する。（発達検査・その他評価）

1：発達のマイルストーンの獲得状況により発達段階を評価することができる.
2：運動発達について観察から発達状況を評価することができる.
3：微細運動発達について観察から発達状況を評価することができる.
4：遊びや言葉，認知・社会面からおおよその精神発達について評価することができる.

脳性麻痺の概論と小児の発達障害、機能障害を呈する疾病の基礎知識を習得する.

5：脳性麻痺の主なタイプについて説明できる.
6：脳性麻痺児の一次的，二次的障害について説明できる.
7：脳性麻痺の合併症について説明できる.
8：脳性麻痺児の陽性徴候，陰性徴候について説明できる.

発達障害のある小児の一般的評価の方法・治療技術について学ぶ.

9：現病歴，生育歴，養育歴，家族歴の情報を収集できる.
10：得られた情報から発達障害の特徴を説明できる.
11：原始反射，立ち直り反応，平衡反応の出現，消失状況の検査を実施できる.
12：姿勢反射の検査結果から中枢神経系の成熟度をおおよそ推察することができる.
13：神経学的反射検査と筋緊張の関連性について説明できる.
14：被動性に動かすことにより，筋緊張の状態を評価できる.
　　筋緊張の状況に応じて観察される特有の姿勢や徴候について説明できる.
15:筆記試験

## ○ *教科書及び参考書*

小児理学療法学テキスト　細田　多穂　　南江堂

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

筆記試験により６０点以上を合格，未満を不合格とする.

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 理学療法治療学VI | **担当講師** | 福留 学 | | |
| **科目区分:** | 専門 | **授業学年:** | 3年 | **単位数:** | 2 |
| **選択必修:** | 必修 | **授業方法:** | 講義 | **単位時間:** | 30 |

## ○ *教育目標*

脊髄損傷の病態、治療方針を理解し、基本的な理学療法アプローチの立案やリスク管理が出来るようにする。また、四肢麻痺・対麻痺も残存レベル別の獲得可能動作を学び、機能レベルの正確な評価の重要性と特有の動作パターンで代償的に機能を獲得していることを理解する。

## ○ *授業内容*

1. 脊髄損傷総論　１コマ
   脊髄損傷の病態と臨床症状
2. 脊髄の解剖学　１コマ
   脊髄の構造・伝導路を学び、麻痺の種類を理解する
3. 4. 診断および評価　２コマ
   Zancolli 分類、ASIA評価、Frankelの分類を学び、key muscleについて理解する
5. 6. 7. 随伴症状と合併症　３コマ
   呼吸障害・起立性低血圧・排尿障害・自律神経過緊張反射
8. 理学療法評価　１コマ
   評価項目を確認しながら、評価の流れを学習する
9. 住宅改造と福祉機器　１コマ
10. 11. 動作分析　実技　２コマ
    頚髄（C6）・脊髄（Th12）損傷をモデルとして動作の実演をし動作分析を行う
12. 13. 14. 治療　実技　３コマ
    PNF、レベル別動作指導（除圧・起居・移乗動作など）
15. 本試験　1コマ

## ○ *教科書及び参考書*

中枢神経障害理学療法学テキスト改訂第2版　南江堂：参考図書　運動療法学　脊髄損傷マニュアル　脊髄損傷の理学療法

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

筆記試験の結果の総合評価により６０点以上を合格、未満を不合格とする。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 理学療法治療学Ⅶ | **担当講師** | 松木 陽一・原野 信人 | | |
| **科 目 区 分:** | 専門 | **授 業 学 年:** | 3年 | **単 位 数 :** | 2 |
| **選 択 必 修:** | 必修 | **授 業 方 法:** | 講義 | **単 位 時 間 :** | 30 |

## ○ *教育目標*

1．循環器疾患に対する運動療法の意義について学ぶ。
2．循環器疾患を理解し、その評価・運動療法の実際を学ぶ。
3．循環器疾患の運動療法におけるリスク管理を学ぶ。
4．糖尿病、末梢循環障害、腎不全等の内部障害について、各疾患別の理学療法の意義と目的を学び、運動処方ができるようになる。

## ○ *授業内容*

① 循環器疾患とは
② 心臓病検査・治療
③ 心不全
④ 虚血性心疾患のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ１
⑤ 虚血性心疾患のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ２
⑥ 運動負荷試験
⑦ 心電図（基礎、頻脈性不整脈）
⑧ 心電図（徐脈性不整脈、虚血性心疾患）
⑨ 糖尿病の病態と臨床症状を学び、運動療法の意義とリスクの根拠を理解する
⑩ 糖尿病運動療法の中核である、有酸素運動の効果について理解する
⑪ 糖尿病管理の基本を理解し、患者に分かりやすく説明できるようにする
⑫ 腎疾患患者の障害像とリハビリテーションの目的
⑬ 肝機能障害患者の障害像とリハビリテーションの目的
⑭ 末梢循環障害患者の障害像とリハビリテーションの目的
⑮ 筆記試験

## ○ *教科書及び参考書*

１５レクチャーシリーズ 内部障害理学療法学　循環・代謝　　中山書店

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

筆記試験を実施し、60点以上を合格、未満を不合格とする。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 理学療法治療学Ⅷ | **担当講師** | 林 浩之 | | |
| **科目区分:** | 専門 | **授業学年:** | 3年 | **単位数:** | 2 |
| **選択必修:** | 必修 | **授業方法:** | 講義 | **単位時間:** | 30 |

## ○ *教育目標*

神経筋疾患で見られる障害の特性について、病態や発症機構を踏まえて理学療法の展開を学習する。神経系に起因する運動障害の原因・回復過程・予後に関する知識を基に、機能障害の回復促進・残存障害および障害の予防に対する評価・運動療法を系統的に表現できるようにする。

1） 各神経筋疾患による障害が説明でき，各病期に必要な基本的理学療法を理解する。
2） 各神経筋疾患による障害を重症度で判定でき、理学療法評価と治療の過程を学ぶ。
3） 治療目標，治療計画を設定できる。
4） 代表的な理学療法プログラムを説明し，立案できる。

## ○ *授業内容*

1） パーキンソン病：①疾患概念、大脳基底核の機能
2） パーキンソン病：②Ｙａｈｒ分類、四大徴候
3） パーキンソン病：③ 薬物療法、脳血管パーキンソニズムとの相違など
4） パーキンソン病：④ 運動療法①症状別
5） パーキンソン病：⑤運動療法②病期別
6） 小脳性運動失調：①小脳解剖生理及び機能
7） 小脳性運動失調：②小脳性運動失調に対する理学療法
8） 脊髄小脳変性症：①ＳＣＤにおける病態と分類、多系統萎縮症
9） 脊髄小脳変性症：②運動療法　症状・病期別の対応
10）筋萎縮性側索硬化症：①疾患概念、主症状、理学療法
11）多発性硬化症：①疾患概念、主症状、画像診断
12）多発性硬化症：②基本的な運動療法、運動負荷量
13）ギランバレー症候群、シャルコーマリートゥース病について疾患概念、主症状と理学療法
14）重症筋無力症や皮膚筋炎や多発性筋炎、HAMについて疾患概念、主症状と理学療法
15）筆記試験

## ○ *教科書及び参考書*

①中枢神経障害理学療法学テキスト　南江堂　②パーキンソン病の理解とリハビリテーション　三輪書店
③運動療法学　文光堂

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

筆記試験を実施し、60点以上を合格、未満を不合格とする。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 理学療法治療学Ⅸ | **担当講師** | 鮫島淳一・西田 徳和 | | |
| **科 目 区 分:** | 専門 | **授 業 学 年:** | 3年 | **単 位 数 :** | 2 |
| **選 択 必 修:** | 必修 | **授 業 方 法:** | **講義** | **単 位 時 間 :** | 30 |

## ○ *教育目標*

1)理学療法実施上必要なバイオメカニクス（支持基底面、てこ、身体重心、床反力、モーメント）の基礎を理解したうえで、片麻痺者や変形性膝関節症のバイオメカニクスや装具療法について理解を深める
2)患者様に理学療法士としてどのように接し、考え、治療につなげるのか思考する
3)症例を基に理学療法臨床思考過程を知る

## ○ *授業内容*

1. 理学療法に必要なバイオメカニクスについて理解できる
2. 起立動作のバイオメカニクスについて理解できる
3. 正常歩行のバイオメカニクスについて理解できる
4. 歩行時のrocker functionについて理解できる
5. 短下肢装具と片麻痺者の歩行の特徴について理解できる
6. 変形性膝関節症バイオメカニクスについて理解できる
7. 変形性膝関節症に対する装具と運動療法について理解できる
8. リハビリテーションの定義から見る理学療法士の役割
9. 障害の受容：体験としての障害・ＩＣＩＤＨ・ＩＣＦ
10. QOLとは（歴史・定義）
11. 12. 大腿骨頚部骨折モデルにて問題点の抽出とゴール設定
13. 脳卒中モデルにて問題点の抽出とゴール設定
14. パーキンソン病モデルにて問題点の抽出とゴール設定
15. 筆記試験

## ○ *教科書及び参考書*

理学療法　臨床実習とケーススタディ　　医学書院

配布資料

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

筆記試験を実施し、60点以上を合格、未満を不合格とする。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 物理療法学 | **担当講師** | 鮫島 康太 | | |
| **科目区分:** | 専門 | **授業学年:** | 3年 | **単位数:** | 2 |
| **選択必修:** | 必修 | **授業方法:** | 講義 | **単位時間:** | 30 |

## ○ *教育目標*

1．物理学のおさらい
2．物理療法の種類・機器類
3．各種療法の適応と禁忌について理解させる

## ○ *授業内容*

1) 物理療法機器体験：物理療法機器を実際体感することで機器名を覚える。内容を定着しやすい環境を作る。
2) 物理療法総論：理学療法における物理療法の位置づけとその定義、分類を理解する。
3) 物理療法総論：各種物理療法の生理学的作用の概要・治療目的、ならびに適応禁忌について理解する。
4) 物理療法の適応に多い病態の理解：炎症徴候、骨格筋・関節の炎症メカニズム、組織修復過程と影響する要因、痛みの神経回路について理解する。
5) 物理療法の適応に多い病態の理解：急性痛と慢性痛の意義と発生メカニズム、これらに対する物理療法の考え方を理解する。
6) 温熱療法：熱物理学の基本的事項、温熱療法の生理学的作用と効果について理解する。
7) 温熱療法：温熱に含まれる機器の特性と熱発生原理、その適応・禁忌を理解する。
8) 寒冷療法：寒冷療法の意義、生理学的作用と効果について理解する。
9) 光線療法：光の基本的性質、光線療法の分類・適応・禁忌について理解する。
10) 水治療法：水の物理的特性、生理学的作用、適応・禁忌について理解する。
11) 電気刺激療法：電気に関する基本的概念、TENS・FES・TENSの違いを理解する。
12) 電気刺激療法：電気刺激療法の生理学的作用と効果ならびに治療目的について理解する。
13) 牽引療法：牽引療法の定義と分類、生理学的作用について理解する。
14) まとめ：核物理療法機器を使用しながら、学んだことを確認し理解を深める。
15) 本試験

## ○ *教科書及び参考書*

15レクチャーシリーズ理学療法テキスト　物理療法学・実習　　中山書店

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

筆記試験を実施し、６０点以上を合格、未満を不合格とする。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 日常生活活動 | **担当講師** | 酒匂 久光 | | |
| **科 目 区 分:** | 専門 | **授 業 学 年:** | 3年 | **単 位 数 :** | 2 |
| **選 択 必 修:** | 必修 | **授 業 方 法:** | 講義 | **単 位 時 間 :** | 30 |

## ○ *教育目標*

日常生活活動（activities of daily living:ADL）はリハビリテーション医学における重要なキーコンセプト（基本概念）であり、そのアイデンティティ（自己同一性、独自性）の不可欠な一部をなすものである。そのADLの基本概念を理解し、各種評価からの繋がりやICF等との関連性を十分に理解する。その上で、臨床におけるADLの重要性を認識できるようにする。

## ○ *授業内容*

1：ADLの概念:ADL・QOLの概念の理解。
2：ADL指導:国際生活機能分類・「しているADL」「できるADL」の理解。
3：ADLの評価：Barthel-Index、ＦＩＭ、Kenny self care evaluation、PULSESプロフィル、Katz index、Wee FIM
4：ADLの評価：Barthel-Indexの概要
5：ADLの評価：FIMの概要
6：ADLの評価：FIMの各論
7：基本動作：基本動作の定義
8：基本動作：基本動作の実技
9：複合動作：複合動作の実技・指導
10：複合動作：複合動作の実技・指導
11：身の回り動作：身の回り動作の実技・指導
12：リハビリテーション支援機器：移動・移乗補助具
13：リハビリテーション支援機器：車椅子
14：リハビリテーション支援機器：自助具
15：本試験

## ○ *教科書及び参考書*

日常生活活動（ADL）　第2版　神陵文庫

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

レポート・試験結果の統合評価により、60点以上を合格、未満を不合格とする。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 義肢装具学Ⅰ | **担当講師** | 福留 学 | | |
| **科目区分:** | 専門 | **授業学年:** | 3年 | **単位数:** | 2 |
| **選択必修:** | 必修 | **授業方法:** | 講義 | **単位時間:** | 30 |

## ○教育目標

リハビリテーション医学の領域で非常に重要な位置を占める装具療法に関して学ぶ。正確な装具を作成，適合させるための医学的知識とならんでバイオメカニクス、材料学、製作加工法などを学ぶ。また、疾患ごとの特徴と装具療法の適応を学び、患者に合った装具処方に関しての必要な知識を学ぶ。

## ○授業内容

1. 装具学総論：装具療法の歴史や定義、目的を学び、装具療法の位置づけを知る。
2. 脳血管疾患の装具療法：CVAにおける装具の役割、重要性を学び、種類に合わせた装具機能を学ぶ。
3. 靴型装具：靴の基本構造を学び、対応疾患に合わせた靴補正や足底板が説明できる。
4. 脊椎疾患の装具：体幹装具の名称・機能を学び、、部位別の装具の特徴を説明することができる。
5. 脊柱側彎症の装具：側弯症の原因と種類を説明でき、装具の種類と適応を理解し、チェックが出来る。
6. 骨関節疾患の装具：骨折・靱帯損傷、関節変形症、スポーツ外傷などの各種装具を理解し、説明できる。
7. 末梢神経損傷・手の装具：上下肢の末梢神経と症状を理解する。また、症状に合った装具を選択し説明ができる。
8. 頚髄損傷・脊髄損傷の装具：障害レベルと残存機能を説明できる。また、残存機能に沿った装具療法を学ぶ。
9. 脳性麻痺の装具：脳性麻痺による下肢障害に適応する装具が選択できる。
10. 小児疾患の装具：疾患の理解と特徴的な装具の役割を理解することができる。
11. リウマチの装具：リウマチの症状を理解し、装具の目的と適応を説明することができる。
12. 坐位保装置・車いす：姿勢保持装置の役割、効果を学び,適応やチェックポイントを説明することができる。
13. 臨床を交えた装具療法の選択法 ：1～12を通して、臨床に沿った装具療法の選択法や効果を学ぶ。
14. 症例検討：症例を通して、装具療法の検討を行う。
15. 本試験

## ○教科書及び参考書

シンプル理学療法学シリーズ　義肢装具学テキスト　改訂第2版　南江堂
参考図書：「義肢装具のチェックポイント第7版」：「装具学第3版」：「理学療法テキストⅥ　義肢装具学

## ○評価方法及び特に記すべき事項

レポート・試験の結果の統合評価とし、合格基準は6割以上とする。それ以下は不合格とする。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 義肢装具学Ⅱ | **担当講師** | 栗屋憲治・中禮仁孝・鮫島淳一 | | |
| **科目区分:** | 専門 | **授業学年:** | 3年 | **単位数:** | 1 |
| **選択必修:** | 必修 | **授業方法:** | **講義・実技** | **単位時間:** | 30 |

## ○ *教育目標*

1)義肢、装具、車椅子、座位保持装置等を含む補装具に関する知識を深め、制作工程や適合チェック等を通してﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医療の一部を担う義肢装具分野の理解を深める。
2)切断者が義肢や義足を使用して、社会復帰できるまでに必要な知識を習得する。

## ○ *授業内容*

1. 2. 短下肢装具の概論、短下肢装具採型デモンストレーション、学生採型練習
3. 4. 足底装具の採型法および陽性モデル修正、短下肢装具の陽性モデル修正
5. 6. 靴型装具について、車椅子、座位保持装置について
7. 短下肢装具適合チェック、大腿義足のダイナミックアライメントについて（大腿義足ユーザー同行）
8. 義肢総論、切断の原因と治療、切断部位と切断術、断端管理法について理解できる
9. 切断者の評価、大腿義足ソケットについて理解できる
10. 11. 下腿義足のアライメントと異常歩行について理解できる
12. 股義足と膝接手について理解できる
13. 14 大腿義足異常歩行について理解できる
15. 本試験

## ○ *教科書及び参考書*

南江堂「シンプル理学療法学シリーズ　義肢装具学テキスト」配布プリント
参考図書：「義肢装具のチェックポイント第7版」：「切断と義肢（ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ技術全書１８）」

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

小テスト、本試験を含め総合的に判断する。60点以上を合格、60点未満は不合格とし、不合格者には再試験を行う。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 運動器学Ⅰ | **担当講師** | 長津 秀文･高田 和真 | | |
| **科目区分:** | 専門 | **授業学年:** | 3年 | **単位数:** | 1 |
| **選択必修:** | 必修 | **授業方法:** | 講義･実技 | **単位時間:** | 30 |

## ○ *教育目標*

神経･筋･骨格系の機能解剖、運動学の知識を基に、姿勢･運動観察および基礎的な検査などを統合し、臨床推論する為の基礎を学ぶ。

## ○ *授業内容*

1. 運動機能異常の理学療法の基礎理論
2. 生体力学、組織の治癒過程など
3. 神経・筋・骨格系の評価（臨床推論過程）
4. 神経・筋・骨格系の評価と（問診・視診）
5. 神経・筋・骨格系の評価と（姿勢観察）
6. 肩甲骨･肩の機能解剖学、機能評価
7. 肘関節･手関節・手指関節の機能解剖学、機能評価
8. 脊柱（骨盤帯）の機能解剖学、機能評価
9. 脊柱（腰椎）の機能解剖学、機能評価
10. 脊柱（胸椎･呼吸機能）の機能解剖学、機能評価
11. 脊柱（頚椎）の機能解剖学、機能評価
12. クリニカルリーズニング
13. 治療計画
14. 効果判定
15. 試験・解説

## ○ *教科書及び参考書*

「系統別・治療手技手技の展開」　改訂　第2版　協同医書　：　他配布資料

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

選択方式、記述問題、実技のいずれかによる試験。60点以上を合格、未満を不合格とする。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 運動器学Ⅱ | **担当講師** | 川元 大輔･鮫島 康太 | | |
| **科 目 区 分:** | 専門 | **授 業 学 年:** | 3年 | **単 位 数 :** | 1 |
| **選 択 必 修:** | 必修 | **授 業 方 法:** | **講義･実技** | **単 位 時 間 :** | 30 |

## ○ *教育目標*

前期の復習を踏まえ、臨床推論（症状や問診により評価、診断）し、グループ内でディスカッションできる。（ＰＢＬ形式）
動作分析において、基本動作の観点から機能障害を理解することは必須である。本授業では、臨床実習で求められるトップダウンに重きを置き、臨床推論能力向上を目標とする。

## ○ *授業内容*

1. 股関節の機能解剖（骨、靭帯の機能）
2. 股関節の機能解剖（筋の触診）
3. 膝関節の機能解剖（骨、靭帯、筋の触診）
4. 膝関節の機能解剖（骨、靭帯の機能評価）
5. 膝関節の機能解剖（筋の機能評価、触診）
6. 足関節の機能解剖（骨、靭帯の機能、機能評価）
7. 足関節の機能解剖（筋の触診、機能評価）
8. トップダウン形式による機能評価の概要
9. 基本動作（寝返り動作）と機能評価の関連
10. 基本動作（起き上がり動作）と機能評価の関連
11. 基本動作（立ち上がり動作）と機能評価の関連
12. 基本動作（歩行動作）と機能評価の関連
13. さまざまな評価や治療の実際１
14. さまざまな評価や治療の実際２
15. 筆記試験

## ○ *教科書及び参考書*

動作分析　臨床活用講座 ： メジカルビュー社　　他、講師配布資料による

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

選択方式、記述問題、レポートのいずれかによる試験。60点以上を合格、未満を不合格とする。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | スポーツ理学療法 | **担当講師** | 福田　隆一・中畑敏秀 | | |
| **科 目 区 分:** | 専門 | **授 業 学 年:** | 3年 | **単 位 数 :** | 1 |
| **選 択 必 修:** | 必修 | **授 業 方 法:** | **講義** | **単 位 時 間 :** | 15 |

## ○ *教育目標*

スポーツにおける外傷・障害とスポーツの関係及び関連する知識･手技を学び、スポーツ現場での外傷･障害をいち早く的確に判断し，適切に対応できる理学療法士を目指す。

## ○ *授業内容*

授業時配布資料に沿って行う。

1．総論　メディカルチェック
2．成長期におけるスポーツ障害
3．頚部･体幹のスポーツ障害に対する理学療法
4．上肢のスポーツ障害に対する理学療法
5．下肢のスポーツ障害に対する理学療法
6．テーピングの理論と実際１
7．テーピングの理論と実際２
8．筆記試験

## ○ *教科書及び参考書*

配布資料

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

筆記試験により６０点以上を合格、未満を不合格とする。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 福祉環境論 | **担当講師** | 横山　尚宏 | | |
| **科 目 区 分:** | 専門 | **授 業 学 年:** | 3年 | **単 位 数 :** | 1 |
| **選 択 必 修:** | 必修 | **授 業 方 法:** | **講義** | **単 位 時 間 :** | 15 |

## ○ *教育目標*

理学療法士の担う役割は、病院・施設から在宅へとニーズが多様にわたっている。在宅リハビリテーションは予防医学・在宅復帰へとその役割は計り知れない。在宅復帰のためにどの様な知識が必要となるか、そのために福祉に即した建築知識・疾患別に対応した在宅・福祉用具の活用法などを習得する。

## ○ *授業内容*

1)　障がい者を取り巻く社会状況と住環境
2)　障がい者のとらえ方と自立支援のあり方
3.4.5)　疾患別に見た不便・不自由と福祉住環境整備の考え方
- 脳卒中
- 廃用症候群
- 肢体不自由
- 内部障害

6)　福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識
7)　在宅生活における福祉用具の活用
8)　筆記試験

## ○ *教科書及び参考書*

配布資料：福祉住環境コーディネーター検定試験　改訂2版

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

筆記試験により６０点以上を合格，以下を不合格とする。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 地域リハビリテーション論 | **担当講師** | 谷口 善昭 | | |
| **科目区分:** | 専門 | **授業学年:** | 3年 | **単位数:** | 2 |
| **選択必修:** | 必修 | **授業方法:** | **講義** | **単位時間:** | 30 |

## ○ *教育目標*

地域リハビリテーションに関する概論として、制度や具体的サービスを学ぶことにより、地域における障害者の自立支援、高齢者の生活を支える為の方法論を理解する。
地域社会における理学療法士の職域、技術等について学ぶ。

## ○ *授業内容*

1. リハビリテーションの定義と歴史の理解
   a 地域リハビリテーションの定義を説明できる
   b 地域リハビリテーションの歴史を説明できる
2. 地域リハに関する法律・制度・CBRについて理解
   福祉関連法について説明できる
   障害者の定義と福祉制度について説明できる
   Community Based Rehabilitation (CBR) の意味を説明できる
3. 4. 介護保険制度、障害者自立支援法の概要を説明できる
   介護保険制度の概要を説明できる
   障害者自立支援法の概要を説明できる
5. 6. 各種の福祉施設についてその違いを説明できる
   介護老人保健施設の理解・介護老人福祉施設の理解・その他障害者施設
7. 8. 地域リハビリテーション医療の流れ（介護予防，急性期，回復期，維持期（適応期），終末期）を説明できる．症状別の医療の流れを理解できる
9. 10. 理学療法士が携わる地域リハビリテーションの種別を理解する
   訪問リハに関する制度・方法を理解できる
   通所リハ・通所介護関する制度・方法を理解できる
11. 12. 介護予防の概念と地域支援事業の理解
   介護予防について制度・ケアマネジメントを理解できる・介護予防事業について理解できる
13. 14. 運動器の機能向上事業
   運動器の機能向上プログラムが理解できる
15. 筆記試験

## ○ *教科書及び参考書*

地域リハビリテーション学テキスト：南江堂

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

筆記試験により６０点以上を合格、未満を不合格とする。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 臨床実習Ⅲ | | **担当講師** | 松木陽一・臨床実習指導者 | |
| **科 目 区 分:** | 専門 | **授 業 学 年:** | 3年 | **単 位 数 :** | 4 |
| **選 択 必 修:** | 必修 | **授 業 方 法:** | 臨床実習 | **単 位 時 間 :** | １８０ |

## ○ *教育目標*

臨床実習指導者のもと、理学療法評価を系統的に実践し、その技術や考察の方法を習得することにある。
加えて、そこで得られた体験を元に最終学年に行われる臨床実習にいかすとともに、専門職としての責任をも自覚しなければならない。

## ○ *授業内容*

実習日：16日

（1）対象者の全体像を把握するために必要な情報収集・評価能力を身につける
（2）評価に基づき問題点を抽出し、対象者の全体像を把握する
（3）妥当性のある目標を設定できる
（4）基本的な理学療法治療・指導計画を提案する

## ○ *教科書及び参考書*

特に定まったものはない。それぞれの臨床実習で必要な参考書などを学生各個人で収集する。もしくは学内において使用した教科書なども参考にする。

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

各臨床実習施設の指導者およびスタッフによる臨床実習の到達度あるいは成長点に関するルーブリック評価内容、理学療法学科内にて総合的に検討し判断する。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 臨床実習Ⅳ | **担当講師** | 野方 敏行・臨床実習指導者 | | |
| **科 目 区 分:** | 専門 | **授 業 学 年:** | 4年 | **単 位 数 :** | １６ |
| **選 択 必 修:** | 必修 | **授 業 方 法:** | 臨床実習 | **単 位 時 間 :** | ７２０ |

## ○ *教育目標*

臨床実習指導者のもと、学内で履修した理学療法に関する総合的な理論と技術を臨床の場で応用、実践していくことにある。

## ○ *授業内容*

臨床実習Ⅳ（臨床長期実習）は２期の実習で構成される。各期の目的は以下の通りである。

第Ⅰ期(実習日：40日)

臨床実習指導者の指導のもと、医療スタッフとしての理学療法士の役割，義務を理解する。また評価から治療実践までの流れを理解し、適切な治療計画を立案し、対象者を総合的に捉え、基本的な理学療法治療・指導計画を遂行できる。

第Ⅱ期(実習日：40日)

Ⅰ期で得た経験をもとに基本的な理学療法治療・指導計画を作成し、指導・助言のもと、あるいは独立して治療を遂行できる。また対象者を総合的にとらえ多角的にアプローチできる。

## ○ *教科書及び参考書*

特に定まったものはない。　それぞれの臨床実習で必要な参考書などを学生各個人で収集する。もしくは学内において使用した教科書なども参考にする。

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

各臨床実習施設の指導者およびスタッフによる臨床実習の到達度、あるいは成長点に関するルーブリック評価内容、理学療法学科内にて総合的に検討し判断する。

# 授業計画書

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **科目名** | 研究法 | **担当講師** | 野方敏行(全教員) | | |
| **科目区分:** | 専門 | **授業学年:** | 4年 | **単位数:** | 1 |
| **選択必修:** | 必修 | **授業方法:** | **講義･演習** | **単位時間:** | 30 |

## ○ *教育目標*

臨床において、科学的根拠のある治療効果を求められている。実際に体験した症例や疾患、実施した治療の成果をどのようにまとめ、現在周知されている知見から、継続的で普遍的な分析研究に繋げ、今後の医療の発展に寄与していく方法を、研究レポート作成を通じて習得する。

## ○ *授業内容*

基本的理学療法である筋力増強運動や関節可動域運動において、負荷量・回数・方法の違いを統計手法を用いて検討し文献的考察を行う。

1. 医学的発展、自己研鑽など、研究を行う意義を学ぶ
2. 倫理的配慮に基づいた研究を行う必要性について学ぶ
3. 基本的統計手法を学び、客観的に結果を解釈する必要性を学ぶ
4. 有意義な研究を行うため、研究計画書の構成について学ぶ
5. 研究計画書の作成
6. データ収集①
7. データ収集②
8. データ収集③
9. データ収集④
10. データ収集⑤
11. データの解釈
12. 考察作成①
13. 考察作成②
14. 考察作成③
15. 試験

## ○ *教科書及び参考書*

## ○ *評価方法及び特に記すべき事項*

研究レポートの提出状況６０%、筆記試験４０%を総合して評価する。
６０%以上は合格、以下は不合格とする。